

子どもたちの「体験の格差」をなくす

日本オラクル株式会社 社員ボランティアの皆様

【パートナー団体:認定 NPO 法人 Learning for All 】

■活動の目的:

認定 NPO 法人 Learning for All (LFA)が運営する小中学生向けの居場所に通う子どもたちに、楽しみながら新しいことを学べるワークショップ形式の機会を提供します。社員がイベントを企画立案し、必要な準備を行って実施することで、現場の負担を増やすことなく、貧困などの様々な環境要因で厳しい状況にある子どもたちに対し、少しでも「体験の格差」の是正を目指します。また、居場所に通うことが誇らしいと思える内容を提供することで、子どもたちの自己肯定感を向上させます。

■活動を始めたきっかけ(活動開始 2020 年 8 月):

コロナ禍にオンラインでできるボランティア活動を探す中で、長年お付き合いのある LFA から葛飾区の居場所への協力を相談されました。子どもたちも外出する機会が減り、体験の格差がより広がる状況に対して、子どもたちのために楽しい思い出を作る企画が始まり。最初は、湘南に住む社員とバーチャルでつながりながら、サーフボードのデザインを学び、各自が段ボールでサーフボードを作成し、リアルタイムの海岸の映像を見ながらサーフィン疑似体験しました。

■活動内容(ボランティア実数 37 名):



弊社では、LFA が運営する葛飾区の居場所に通う小中学生に対し、年に数回のハンズオンのクラフトワークショップを行っています。コロナ期間中はリモートで始めましたが、コロナ明け以降は現地に行く社員とオンラインで参加する社員のハイブリッドで実施。LFA からの要望で、年に 1 回は子どもたちを弊社のオフィスに受け入れ、ワークショップや社員食堂での食事、オフィスツアーなどを組み合わせ、職業体験の要素を組み込んでいます。

毎回、ワークショップの内容については、開催の2ヶ月くらい前から、次のクラフトのアイデアを出し合い、LFA の現場スタッフとすり合わせの上、開催内容を決めています。できるだけ季節ごとのイベントに配慮した内容にすることで、季節の移り変わりや催事の歴史的・文化的背景を学べるように工夫しています。例えば、七夕には世界の似ている伝承を学びつつ、みんなで巨大な天の川の立体絵を製作したり、夏休みに暑中見舞いや郵便について学び、切手を貼って誰かに貼り絵の暑中見舞いを出す体験をしたり、12 月には、お正月飾りの歴史や背景を学びながら、正月飾りを作り、年明けの楽しみを作ったり、季節を楽しむワークショップを実施

しました。

また、LFA から入浴を面倒くさがるお子さんにお風呂を楽しんでもらえるようなワークショップができないかと相談された際には、社内で「どうしたら楽しくお風呂に入ろうと思ってもらえるか」と議論を重ね、お風呂の中に入れて香りと泡を楽しむバスボム作りに挑戦しました。社員が自宅で試作を重ね、子どもでも作りやすい分量ややり方をまとめ、事前にこちらで行った方がいいプロセスなどの整理をし、限られた時間で子どもたちが完成品を作れるように工夫をしました。バスボム作りには、弱アルカリ性の重曹と弱酸性のクエン酸を使うため、子どもたちに化学の基礎を伝えつつ、「量をしっかりと計らないと意図しない化学反応が発生してしまうから注意が必要」と念を押しました。この体験から学んだのは、子どもたちは少しか難易の高いものへ挑戦すること、とても喜びを感じ、集中して取り組んでくれるということです。



このような経験から、私たちは、子どもたちが楽しんでくれるかという観点を大切に、「自由で新しい発想」をキーワードに、常にちょっと挑戦的で、ちょっと難しくて、出来上がったものを誰かに自慢したくなるようなワークショップを企画・運営しています。

■活動の成果：

16 回のワークショップ(うち 2 回はオフィス)を実施し、延べ 144 名の社員ボランティアが参加。1 回のワークショップへの子どもの参加人数は 10 名前後。継続することで社員ボランティアの名前を覚え、新しいことを学びながら、成功も失敗もどちらも楽しむ雰囲気を作ることで、子どもたちが安心して参加できる場作りを行い、子どもたちに「オラクルのイベントなら参加したい」と言ってもらえる信頼関係を築くことができました。

第 10 回企業ボランティアアワード『大賞』